

原木及び木材製品の流通に関する見通し調査(令和7年9月実施分)

1. 調査対象
2. 調査実施時期
3. 調査の内容
4. 企業判断指数の算出方法
5. 調査結果(回答工場数:78社 / 回答率:87.6%)

【①原料在庫状況(トドマツ)】

企業判断指数		(太字は調査時点の現状認識、斜体文字は見通し)				
調査時点	2024.10-12	2025.1-3	2025.4-6	2025.7-9	2025.10-12	2026.1-3
R6.12	-28	-16	-2	-	-	-
R7.3	-	-19	-18	-23	-	-
R7.6	-	-	-15	-15	-15	-
R7.9	-	-	-	-12	-9	-9
原木在庫量(「林産工場動態調査」より)※月平均 (m3)						
	2024.10-12	2025.1-3	2025.4-6	2025.7-9	2025.10-12	2026.1-3
当年	160,922	182,138	189,101	-	-	-
(前年)	194,394	208,257	203,910	184,018	160,922	182,138
対前年比	83%	87%	93%	-	-	-

(概況)  
原木在庫は前年を下回る状況。現状は注文が少なく在庫分で対応できるため、10月以降入荷する予定との声も。

(回答企業の主なコメント)  
原木の入荷が少ないが製品の動きも悪いため、不足感はない/原木の入荷は現状少ないが、10月以降入荷の見込み/夏から秋にかけてシステム材待ちの状態/適材が集まらない

【②製品の荷動き(トドマツ)】

企業判断指数		(太字は調査時点の現状認識、斜体文字は見通し)				
調査時点	2024.10-12	2025.1-3	2025.4-6	2025.7-9	2025.10-12	2026.1-3
R6.12	-33	-49	-40	-	-	-
R7.3	-	-39	-33	-27	-	-
R7.6	-	-	-37	-27	-35	-
R7.9	-	-	-	-40	-43	-45
原木消費量(「林産工場動態調査」より) (m3)						
	2024.10-12	2025.1-3	2025.4-6	2025.7-9	2025.10-12	2026.1-3
当年	214,997	194,977	203,681	-	-	-
(前年)	223,613	195,992	214,229	206,088	214,997	194,977
対前年比	96%	99%	95%	-	-	-

(概況)  
原木消費量は前年を下回る状況。引き続き建築材の荷動きは悪いものの、梱包材や土木用材は前年並みを維持しているとの声も。

(回答企業の主なコメント)  
一般住宅用建築材の荷動きが低調/製材の荷動きは非常に悪い状態/一般製材の動きは非常に悪いが、土木資材・梱包材の動きは悪くない/製品の動きは前年並みの見込み/桧木・合板材の需要増

【③原料在庫状況(カラマツ)】

企業判断指数		(太字は調査時点の現状認識、斜体文字は見通し)				
調査時点	2024.10-12	2025.1-3	2025.4-6	2025.7-9	2025.10-12	2026.1-3
R6.12	-17	-15	-13	-	-	-
R7.3	-	-15	-30	-28	-	-
R7.6	-	-	-36	-41	-37	-
R7.9	-	-	-	-59	-48	-26
原木在庫量(「林産工場動態調査」より)※月平均 (m3)						
	2024.10-12	2025.1-3	2025.4-6	2025.7-9	2025.10-12	2026.1-3
当年	194,918	198,468	185,872	-	-	-
(前年)	227,910	241,635	244,649	233,392	194,918	198,468
対前年比	86%	82%	76%	-	-	-

(概況)  
原木在庫は前年を下回る状況。伐採量が少ないため、製材品の受注が伸び悩む中でも購入意欲はあるとの声も。

(回答企業の主なコメント)  
原木在庫は例年より少ない/入荷が少ないが、製品の動きも悪いため、不足感はない/山から出てくる材はパルプ材が多く、適材が少ない/12月まで在庫は減少気味/相対的に伐採量自体を減らしていることが伺える

【④製品の荷動き(カラマツ)】

企業判断指数		(太字は調査時点の現状認識、斜体文字は見通し)				
調査時点	2024.10-12	2025.1-3	2025.4-6	2025.7-9	2025.10-12	2026.1-3
R6.12	-26	-45	-42	-	-	-
R7.3	-	-34	-23	-26	-	-
R7.6	-	-	-26	-37	-27	-
R7.9	-	-	-	-21	-28	-36
原木消費量(「林産工場動態調査」より) (m3)						
	2024.10-12	2025.1-3	2025.4-6	2025.7-9	2025.10-12	2026.1-3
当年	198,049	179,425	188,250	-	-	-
(前年)	182,272	177,283	190,253	190,679	198,049	179,425
対前年比	109%	101%	99%	-	-	-

(概況)  
原木消費量は概ね前年並みの状況。梱包・パレット材の注文は増えているものの、例年と比較すると伸び悩んでいるとの声も。

(回答企業の主なコメント)  
製品は梱包を主体に出荷しているが、動きはよくない/梱包材の受注量減少/製材は昨年並みを維持している/第2四半期の受注は前年と比較して回復傾向、第3四半期も当面は回復傾向が予想される

道内の木材需給の見通し（令和7年9月調査分）

—令和7年11月公表—

北海道水産林務部林務局林業木材課  
北海道森林管理局森林整備部資源活用第一課

原木在庫・製品荷動き		前年同時期と比較した製材・合板工場の見通し（原木及び木材製品の流通に関する調査（北海道）による）	
トドマツ	《7～9月》	《10～12月見通し》	<div>○製材、合板工場の「原木在庫」は前年を下回っており、10月以降も前年を若干下回る見通し。</div> <div>○製材、合板工場の「製品荷動き」は原木消費量での判断では前年並みとなっており、10月以降は前年を下回る見通し。</div>
カラマツ	《7～9月》	《10～12月見通し》	<div>○製材、合板工場の「原木在庫」は前年を下回っており、10月以降も前年を下回る見通し。</div> <div>○製材、合板工場の「製品荷動き」は原木消費量での判断では前年並みとなっており、10月以降は前年を下回る見通し。</div>

《凡 例》

《原木在庫》

《前年を上回る》

《前年並み》

《前年を下回る》

《製品荷動き》

《前年を上回る》

《前年並み》

《前年を下回る》

素材生産動向		前月と比較した林業事業体の見通し（素材生産動向調査（北海道森林管理局）による）	
トドマツ	《7～9月》	《10～12月見通し》	<div>○素材生産動向は、「順調」9%、「並み」70%、「不調」21%となっており、<u>並みの見通し</u></div>
カラマツ	《7～9月》	《10～12月見通し》	<div>○素材生産動向は、「順調」13%、「並み」59%、「不調」29%となっており、<u>並みの見通し</u></div>

《凡 例》

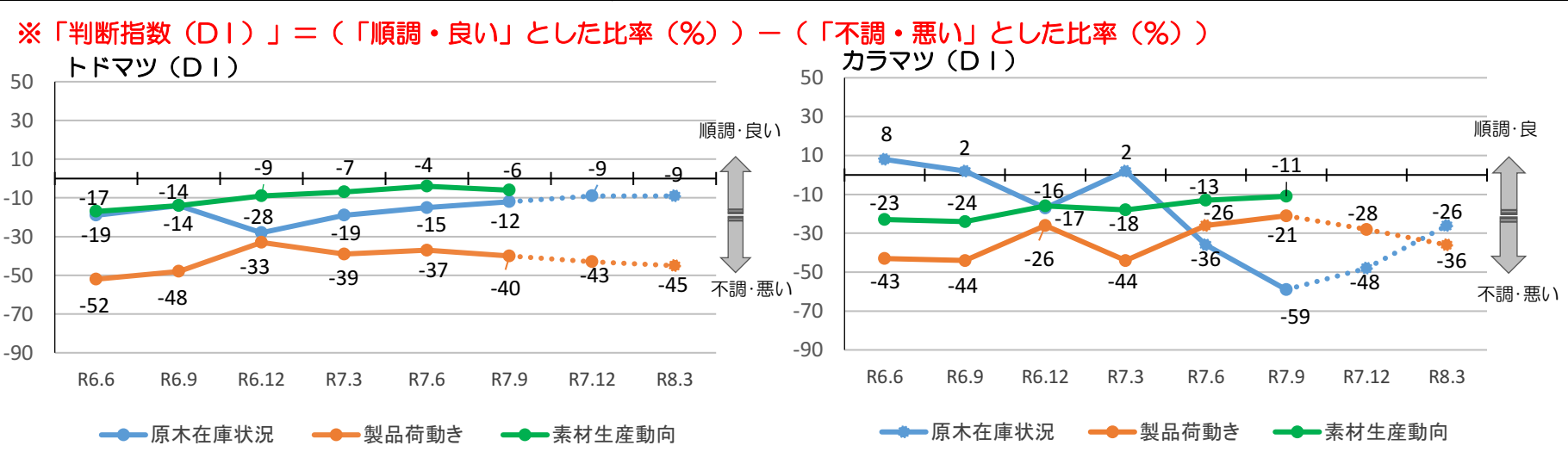
《順 調》

《並 み》

《不 調》

素材生産と製材・合板工場の原木在庫・製品荷動きのDI

○素材生産のDIは、前月と比較した判断指数  
○原木在庫、製品荷動きのDIは、前年同時期と比較した判断指数 ※点線は今後の見通し



《参 考 情 報》

注：回答のあった北海道登録林業事業体の数値で全道の素材生産量の合計数値ではありません。

素材生産量の推移

9月の素材生産量は先月比11.6千m³増の154.4千m³  
10月の素材生産量は、6.2千m³減の148.2千m³の見通しで、札幌地区以外で減る見通し

（千m³）

札幌地区 函館地区 旭川地区 北見地区 帯広地区

出典：素材生産動向調査（北海道森林管理局）による

製材工場の原木在庫量の推移

9月のトドマツ原木在庫量は前年同月を上回り、原木消費量は前年同月並みとなる見込み  
9月のカラマツ原木在庫量は前年同月を下回り、原木消費量は前年同月並みとなる見込み

（千m³）

札幌地区 函館地区 旭川地区 北見地区 帯広地区

出典：製材工場動態調査（北海道）による

注：道内のカラマツ、トドマツ製材工場の合計数値でR7.1～3月は速報値でエゾマツを含む

素材生産と原木在庫・製品荷動きのDI（地区別）

○素材生産のDIは、前月と比較した判断指数 ※点線は今後の見通し  
○原木在庫、製品荷動きのDIは、前年同時期と比較した判断指数

